

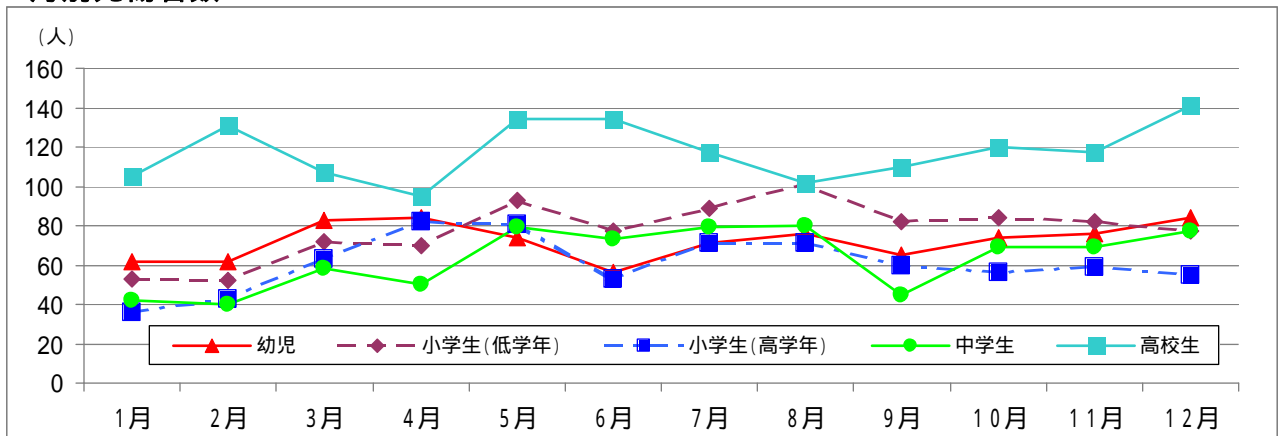


小・中・高校生は自転車乗用中の事故が多い!! 幼児は自動車乗車中の事故が多い!!



平成 20 年中の幼児、小・中・高校生の事故

1 月別死傷者数



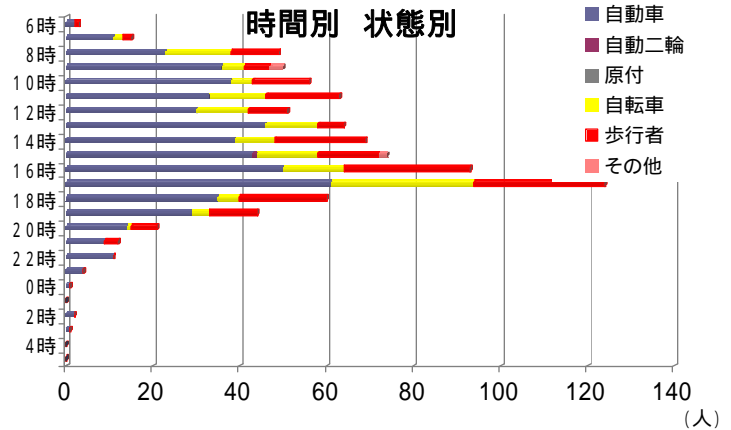
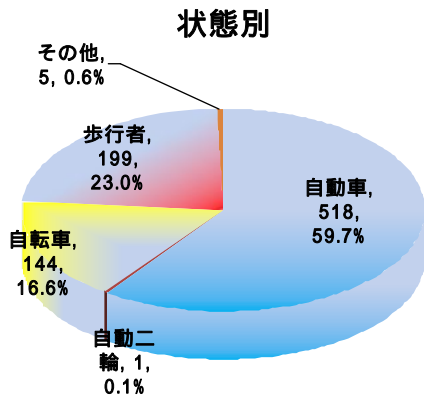
小学生（低学年）は、夏休みが多い
 中学生以下は、3月から増加
 高校生は、12月が多い

保護者の方へ!!

子どもを乗せて運転する時は、シートベルト・チャイルドシートを!

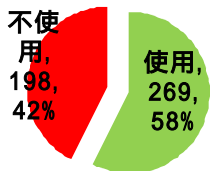


2 幼児の死傷者の特徴



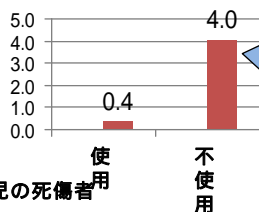
○幼児は自動車乗車中の死傷者が多い！

自動車乗車中の死傷者の チャイルドシート使用有無別



注 6歳未満の幼児の死傷者

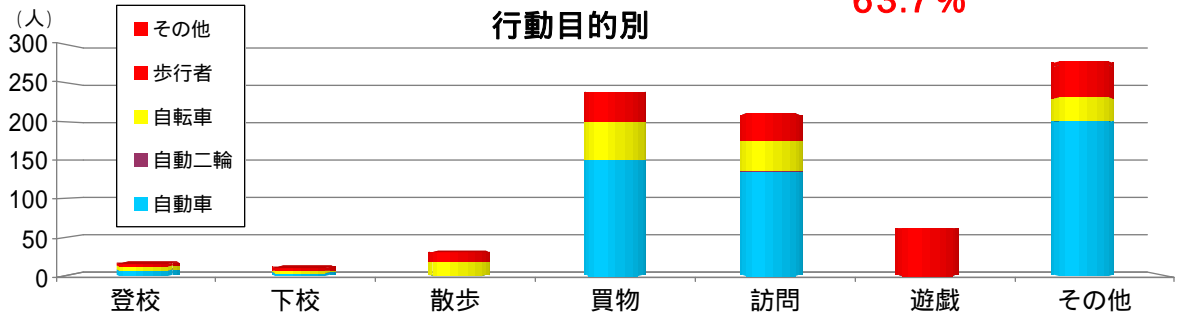
重傷以上の割合



チャイルドシート不使用の場合、重傷以上の割合は

10倍！

県下のチャイルドシート使用率(平成20年10月調査)
63.7%



○歩行者では道路上での遊戯中の事故が多い！

1 自動車に乗せるときは、シートベルト、チャイルドシートを！

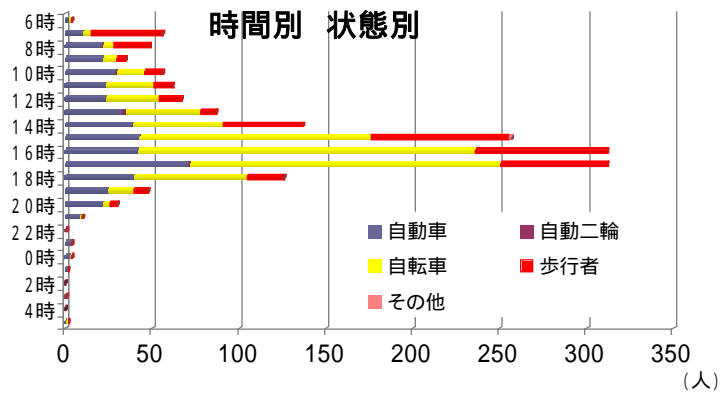
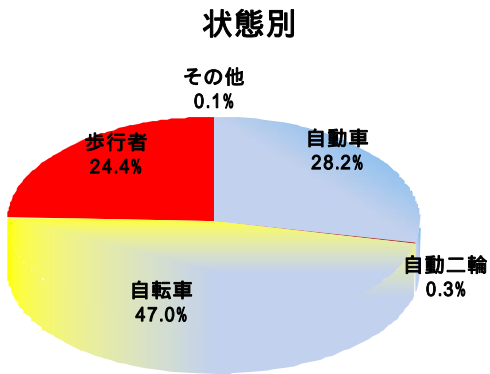
幼児の死傷者の6割が自動車乗車(同乗)中であり、正しくシートベルトを着用、チャイルドシートを使用することで、万一事故に遭ったときに子どもの命と体を守ることができます。同乗することも守るのは、運転者の責任です。後部座席に子どもを乗せる時も、シートベルトを着用、チャイルドシートを使用してください。

2 子どもを道路で遊ばせない！ 子どもがいそうな道路は徐行する！

幼児の歩行中の事故は、道路上で遊んでいる時によく起きています。生活範囲も徐々に広がり、保護者の目の届かないところで遊ぶことも多くなりますが、「道路で遊ぶと危険である」ことを、子どもに繰り返し教えましょう。

また、通学路や午後の住宅街、公園付近等、子どもが遊んでいそうな道路を通行する運転者は、急な飛び出し等に備え、見通しの悪い交差点では徐行するなど、安全運転に心がけてください。

3 小学生の死傷者の特徴

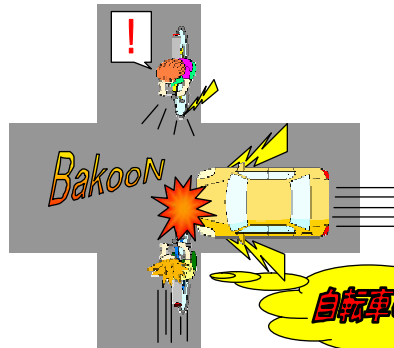
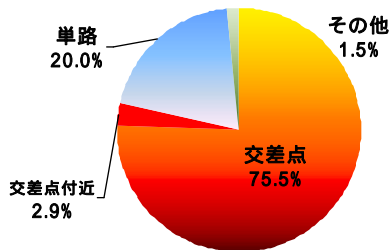


○小学生は、自転車乗用中の死傷者が多い！

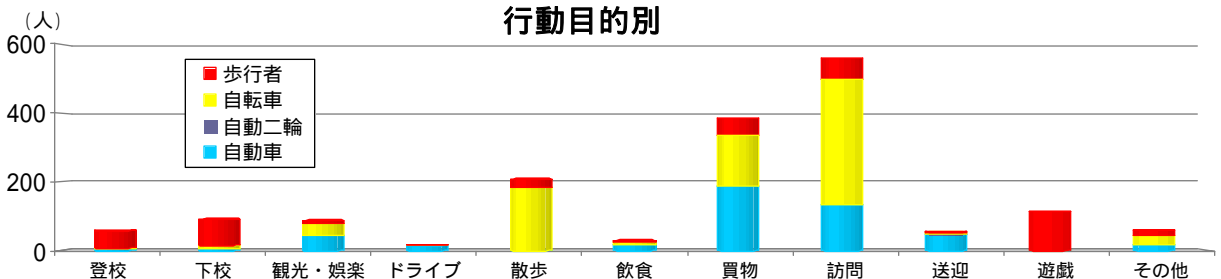
○15時～17時が多い！

小学生の自転車事故では、交差点が約8割！

自転車乗用中の死傷者の道路形状別



自転車の右側通行は危険!!



○登校時より、下校時の事故が多い！

○自転車で友人宅等を訪問時の事故が多い！

1 自転車に乗るとき、交差点では飛び出さない！

幼児と違い友達も増え、自転車にも乗れるようになった小学生は、親の目の届かないところで行動する機会が増えます。しかし、自転車は軽車両という車両の一種で、一時停止、左側通行など、道路交通法等で定められたルールを守する必要があります。

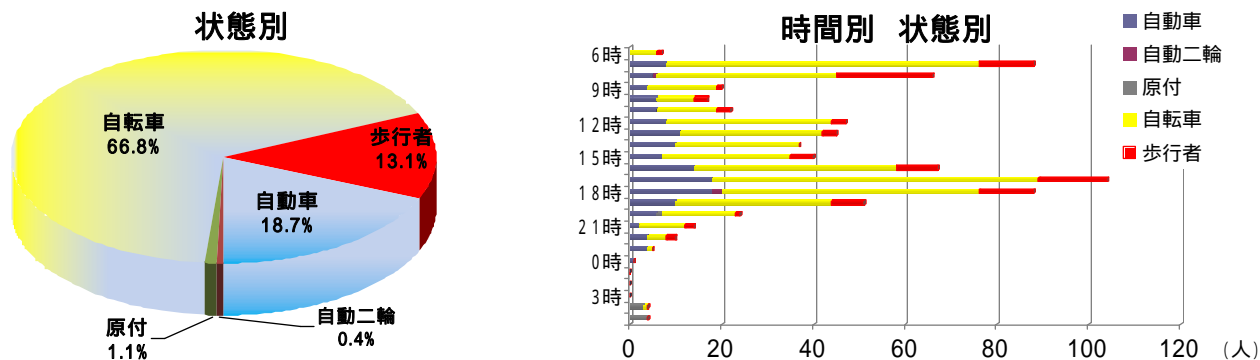
保護者の方はこどもに自転車の乗り方とともに、自転車を運転する時に守らなければならないルールを教えてください。

2 下校時、放課後、友人と遊ぶ時が危険！

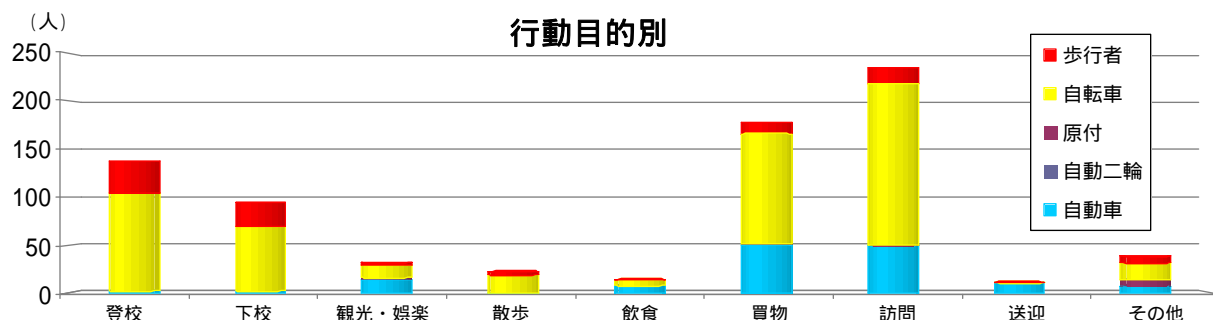
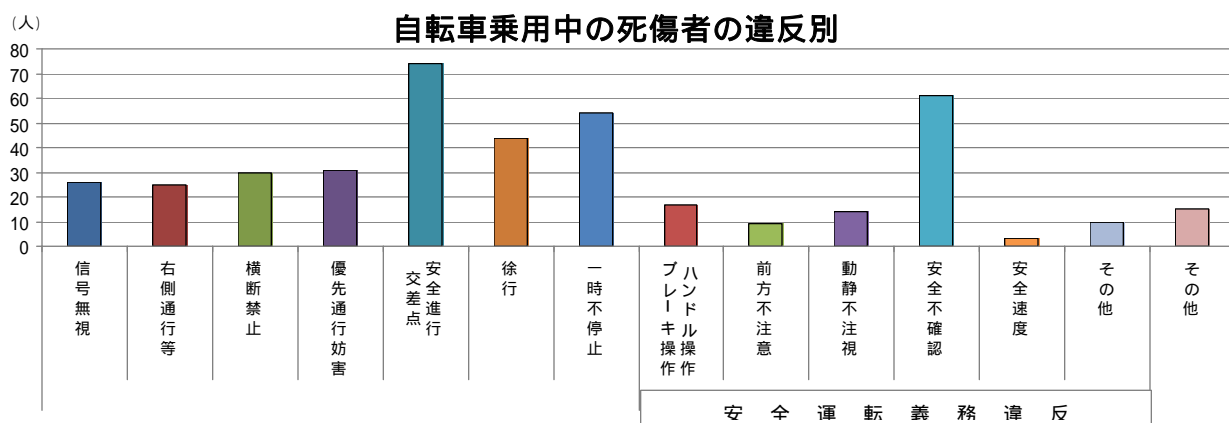
こどもは、遊びに夢中になると、まわりの危険が目に入らなくなります。友人と遊ぶことに夢中になり、早くともだちと遊びたいと急ぐあまり、道路に飛び出したり、見通しの悪い交差点で飛び出したりという危険な行動をしがちです。日頃から家庭等で交通安全について繰り返し教育することが大切です。

運転者の方も、遊んでいるこどもを見かけた時には、死角に他のこどもがいないか、また、こどもが自分の車に気がついていないことも考えて、速度を落とすなど安全運転に努めてください。

4 中学生の死傷者の特徴



○中学生では、7~8時、17~18時の自転車の事故が多い！



○自転車での訪問、買物時の事故が多い！

○下校中より、登校中の事故が多い！

1 中学生も、自転車での事故が多い！

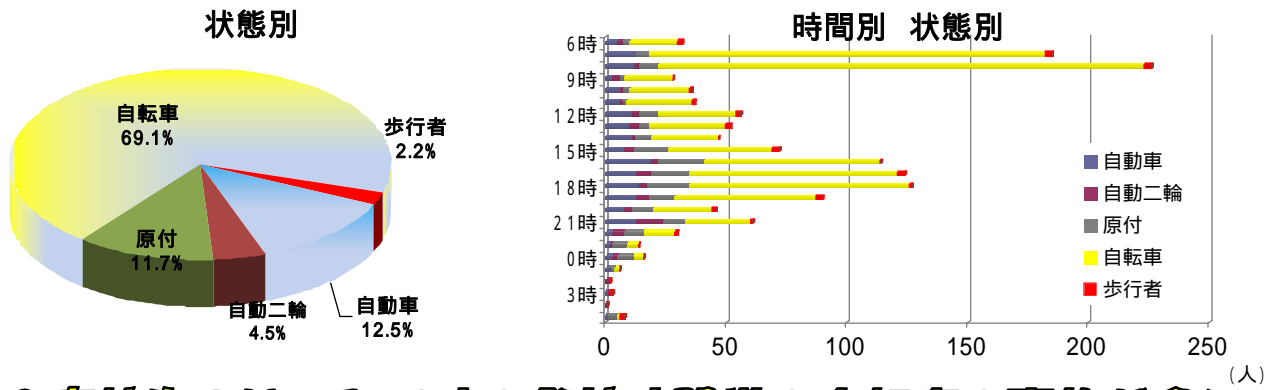
中学生になると、小学生に比べ、さらに行動範囲、時間が広がります。クラブ活動、勉強等のため、交通事故の多い薄暮時に自転車を運転する機会も増えます。交通ルールを守ることはもちろん、ライトを点灯し、さらに反射材を自転車に付ける等、夜間でも周りから良く見えるようにすることが大切です。

2 登校中の事故が下校中より多い！

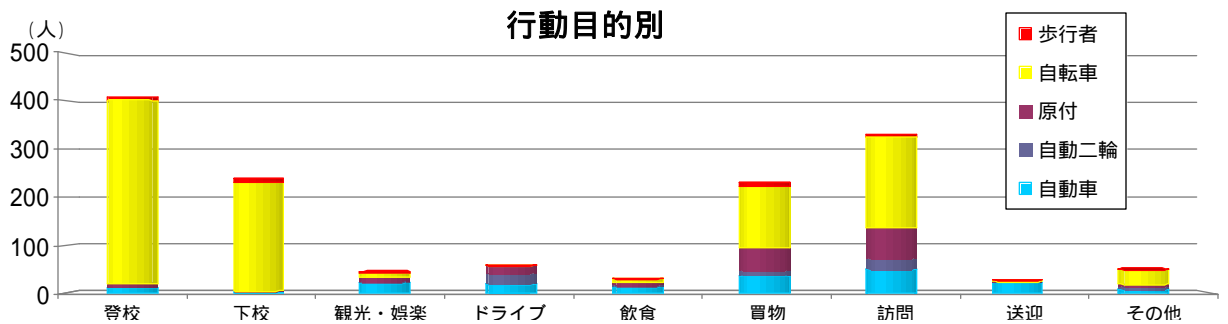
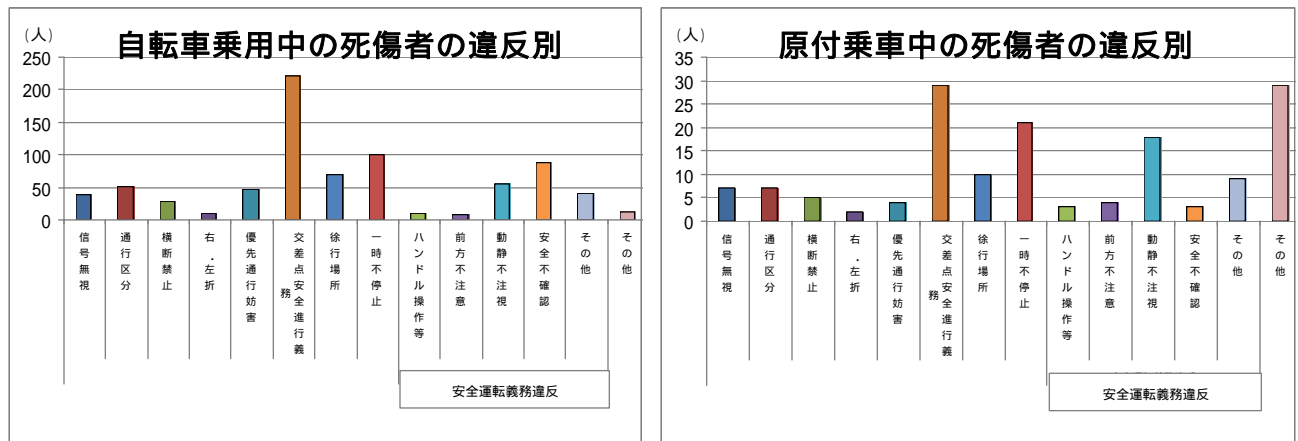
小学生と同じく最も多いのは「訪問」ですが、中学生の特徴として、下校中よりも登校中の死傷者が多くなっています。これは、小学生と違い、集団登校ではないことや遅刻しそうになり急ぐ心理が、自転車の無謀な運転という危険な行動になります。

時間に余裕を持った登校で、無謀、無理な行動をしなくても良いように心がけることが交通事故を防ぐこととなります。

5 高校生の死傷者の特徴



○**高校生では、7~8時の登校時間帯の自転車の事故が多い。**



○**通学時の自転車の事故が多い！**

○**原付では、買物・訪問時の事故が多い！**

1 小・中・高校生では、高校生が最も多い！通学時、特に登校中が危険！

高校生は、登下校時の自転車乗用中の死傷者が多くなっています。

小・中学生よりも遠くに通学することにより、事故に遭う可能性が高くなることや、自転車を安全に運転するという意識が低いことが、交差点安全進行義務違反や安全不確認、一時不停止等の違反が多いことからもうかがえます。

2 原付運転時の事故が増える！

運転免許を取得できる年齢になり、原付乗車中の事故も目立ちます。原付乗車中の違反でも自転車と同じく交差点安全進行義務違反や一時不停止が多くなっていますが、原付の特徴として動静不注視が多くなっています。運転経験が浅く、周りの自動車等の行動が危険かどうかを判断する能力が低いと思われます。